四国災害アーカイブス

アーカイブスあらかると

Vol.94～105（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

一般社団法人　四国クリエイト協会

はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成 24 年 7 月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成 25 年 7 月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成 26 年 7 月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24 年 7 月以来、毎月、四国災害アーカイブスのＷＥＢサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には令和 2 年度分 Vol.94～105（2020 年 4 月～2021 年 3 月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和 3 年 4 月

一般社団法人　四国クリエイト協会

理事長　　工藤　建夫

目　　次

■Vol.94（2020年4月）享保の飢饉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

・當郷餓死萬霊塔（愛媛県松山市）

・義農作兵衛（愛媛県松前町）

■Vol.95（2020年5月）鹿の井出水の水争い・・・・・・・・・・ 5

・大正13年の干ばつ（香川県高松市）

・昭和14年の干ばつ（香川県高松市）

■Vol.96（2020年6月）職責を全うしようとして・・・・・・・・ 9

・校長の殉職（高知県四万十市）

・消防士と警察官の殉職（高知県北川村）

■Vol.97（2020年7月）同じ日の崩壊・・・・・・・・・・・・・・ 13

・高磯山の崩壊（徳島県那賀町）

・保瀬の崩壊（徳島県海陽町）

■Vol.98（2020年8月）藩が雨乞いを・・・・・・・・・・・・・・ 17

・水主神社の雨乞い（香川県東かがわ市）

・光林寺の雨乞い（愛媛県今治市）

■Vol.99（2020年9月）台風による山崩れ・・・・・・・・・・・・ 21

・昭和51年台風17号による山崩れ（愛媛県今治市）

・昭和50年台風5号による山崩れ（高知県土佐市）

■Vol.100（2020 年 10 月）石碑に込められた思い･･･25
・平地区の慰霊碑（徳島県那賀町）
・西城の大水害復興記念碑（香川県小豆島町）
■Vol.101（2020 年 11 月）津波がここまで･････････29
・八大神社の馬場まで（徳島県阿南市）
・若一王子宮の鳥居まで（高知県香南市）
■Vol.102（2020 年 12 月）安政南海地震の津波碑･･･33
・豊浦神社の石碑（徳島県小松島市）
・宇佐萩谷の安政地震津波碑（高知県土佐市）
■Vol.103（2021 年 1 月）計画を立て、やり遂げる･･37
・亀越池（香川県まんのう町）
・坂之内池（愛媛県四国中央市）
■Vol.104（2021 年 2 月）ため池の改修･････････････41
・岩瀬池の改修（香川県三豊市）
・犬塚池の改修（愛媛県今治市）
■Vol.105（2021 年 3 月）石段が伝える･････････････45
・八幡神社と延命寺の石段（徳島県美波町）
・神明宮と江雲寺の石段（高知県須崎市）

■四国災害アーカイブスの概要･････････････････････ 49

享保の飢饉

享保の飢饉は西南諸藩に被害をもたらしましたが、中でも松山藩の被害は甚大でした。藩から幕府への報告によると、藩内の餓死者は 3,489 人で全国の 3 分の 1 程を占めていました。享保の飢饉に関する愛媛県松山市と松前町の話をお伝えします。

■當郷餓死萬霊塔（愛媛県松山市）

松山地方では、享保 17 年（1732）5 月から降り始めた雨が、麦の成熟・収穫期と重なって農作物に大きな影響を与えました。降雨は 5 月、6 月、7 月と続き、重信川や石手川などの河川の氾濫、田地の流失が繰り返されました。その上、日照時間の不足による低温、病害、虫害、特に南方より飛来した浮塵子（うんか）の異常発生で、稲が枯死し、収穫は皆無となり、多くの餓死者が出ました。松山市南高井の長善寺前には餓死した人々の霊を弔うために供養塔「當郷餓死萬霊塔」が建てられています。供養塔の標識によると、高井村（現松山市）では約半数の人々が餓死したとも伝えられています。＜久米郷土誌編集委員会編「久米郷土誌」1992 年、神原健編「愛媛県気象史料」1952 年、當郷餓死萬霊塔の標識（松山市教育委員会）＞

當郷餓死萬霊塔

當郷餓死萬霊塔の標識

Vol. 94（2020 年 4 月）享保の飢饉②

■義農作兵衛（愛媛県松前町）

享保の飢饉により松山藩の中で最も被害が大きかったのは、筒井村（現松前町）を中心とする伊予郡でした。百姓はわずかに貯えた雑穀や草の根、海藻などで飢えをしのぎましたが、それも尽きると城下松山に出て袖乞いをするようにまでなりました。筒井村の作兵衛の家では享保 17 年（1732）6 月に父が、8 月に長男が餓死し、9 月には作兵衛自らも過労と飢えのため麦の種播き中に昏倒しました。作兵衛の家には麦種子が 1 斗（約 18 リットル）残されていました。村人たちはこれを食用にして飢えをしのぐことを勧めましたが、作兵衛は、種子は農の基であり、自分一個人の生命にかえることはできぬと言い、麦種子の俵を枕に餓死しました。44 歳でした。作兵衛の墓や銅像が建立されている義農神社では毎年 4 月に義農祭が行われています。＜松前町誌編集委員会編「松前町誌」1979 年など＞

義農之墓

義農神社
copyright©2013四国災害アーカイブス

重信川
義農神社
松前町
（地理院地図に加筆）

鹿の井出水の水争い

香川県高松市太田下町に幅 4m程、長さ 240m程の鹿の井出水（ですい）があります。この鹿の井出水の出水ざらえをめぐって、江戸時代から上流の多肥村と下流の伏石村の間で水争いが起こってきました。大正 13 年と昭和 14 年の干ばつ時のことをお伝えします。

■大正 13 年の干ばつ（香川県高松市）

地勢上、上流の多肥村の浅層地下水が鹿の井出水に向かって流出するため、鹿の井出水の底ざらえを深くすると上流の出水や井戸水が枯れるという関係にありました。このため、出水ざらえが水争いの原因になりやすく、下流の伏石村が毎年春に一回だけ行う出水ざらえには厳しい水利慣行がありました。大干ばつとなった大正 13 年（1924）夏、追い詰められた伏石の農民たちは 8 月 21 日に鍬やジョウレンを持って、夜中に伏石神社に集まり、鹿の井出水に押しかけ、夜を徹して出水の底を深くさらえました。これを知った多肥村の農民は鍬を持って現場に駆けつけ、さらえた泥を出水に落とすなどしました。鹿の井出水では多肥村側と伏石側が土砂を投げ合い、怒号が飛び交うなど混乱しましたが、駆けつけた多数の警官によって紛争は一応収束しました。＜香川県土地改良事業団体連合会編「香川県土地改良事業団体連合会 50 年史」2008 年など＞

（地理院地図に加筆）

Vol. 95（2020 年 5 月）鹿の井出水の水争い②

■昭和 14 年の干ばつ（香川県高松市）

昭和 14 年（1939）は春の降雨が少なく、7 月～9 月に雨が降りませんでした。鹿の井出水の伏石掛 110 余町歩では水がなく、80 余町歩は各自所有の用水堀でかろうじて植え付けをしましたが、残り 30 町歩は何も作れなかったといいます。この大干ばつを契機に、鹿の井出水の伏石掛は鹿の井出水浚渫権確認等の請求について高松地方裁判所に提訴しました。年一回立ち会いのもと浚渫できるという古来の慣行を法的に解決することを目指したものでしたが、裁判は長期化し、戦時下、戦後の混乱の中で立ち消えのようになってしまいました。その後、内場ダムの完成と導水により昭和 33 年に慣行の一部が緩和され、昭和 53 年の香川用水の導水などを経て、昭和 55 年にようやく鹿の井出水の水利慣行が全面解放されることになりました。
＜多肥郷土史編集委員会編「多肥郷土史」1981 年など＞

鹿の井出水記念碑
copyright=2013四国災害アーカイブス
鹿の井出水記念碑

鹿の井出水記念碑
太田五町
高松自動車道
長池
太田池
太田上町
多肥下町
太田駅
高松市
（地理院地図に加筆）

職責を全うしようとして

災害時に殉職される方がいます。職業や災害の状況などはさまざまですが、それぞれに自らの職責を全うしようとして命をなくされました。各地に殉職者の慰霊碑が建立されています。高知県四万十市と北川村の例をお伝えします。

■校長の殉職（高知県四万十市）

昭和 20 年（1945）9 月 17 日、枕崎台風が西土佐村（現四万十市）を襲いました。山林の大木が倒れ、家屋は倒伏、浸水し、決壊等により交通・通信は途絶し、田畑の被害も甚大となりました。特に四万十川沿岸一帯の地域は危険にさらされ、昭和 10 年に流失し昭和 12 年に復旧していた抜水橋が増水のため再び流失するなどしました。豪雨の中を人々が避難する中、中半（なかば）国民学校では校舎が倒壊して、校具を搬出中の校長が殉職するという惨事が起こりました。西土佐村立中半小学校は昭和 63 年に閉校し、現在は自然体験型宿泊施設・四万十楽舎として活用されていますが、その校庭の端に校長先生の殉職の碑が残されています。＜西土佐村史編纂委員会編「西土佐村史」1970 年＞

校長先生の殉職の碑

四万十楽舎
copyright©2013四国災害アーカイブス

四万十市
四万十川
殉職の碑
（地理院地図に加筆）

Vol. 96（2020 年 6 月）職責を全うしようとして②

■消防士と警察官の殉職（高知県北川村）

昭和 46 年（1971）7 月 25 日深夜から集中豪雨となり、北川村加茂地区では浸水が始まりました。加茂地区は鉄砲水の出やすい所で、この時もあっという間に加茂川が増水し、道を越えて浸水しました。このため、警戒に当たっていた中芸消防署員が徒歩で進むうちに幅 2.5mの村道が決壊し、一人の消防士が急流に転落して行方不明となりました。さらに、その転落事故を知って救助に向かった安芸署の警察官も決壊道路から転落して行方が分からなくなりました。近隣の消防団員、警察署員、地元民ら約 200 人が出動し、夜通しで捜索が行われ、26 日午前中に二人の遺体が下流で発見されました。加茂地区に殉職碑が建立されています。＜吉本珖編「新安田文化史」1975 年＞

加茂地区の殉職碑

殉職碑前の加茂川

（地理院地図に加筆）

Vol. 97（2020 年 7 月）同じ日の崩壊①

同じ日の崩壊

明治 25 年（1892）7 月 25 日、台風による暴風雨が数日間続いた後、徳島県で２つの崩壊が起こりました。上那賀町（現那賀町）の高磯山の崩壊と海南町（現海陽町）の保瀬の崩壊です。

■高磯山の崩壊（徳島県那賀町）

7 月 25 日午前 11 時から正午頃にかけて、大戸の高磯山（611m）の北斜面が大音響とともに崩壊しました。崩壊した土砂は那賀川を越えて対岸まであふれ、荒谷・春森の人家十数戸、60 余人が埋没しました。土砂は那賀川の流れをせき止め、上流が湛水して天然ダムを形成しました。天然ダムは 27 日午後 4 時頃に決壊し、直ちに鉄砲、半鐘、太鼓などで通報されましたが、大水が下流を襲い、鷲敷町などに大きな被害をもたらしました。高磯山より上流にあるつづら峠の記念碑には、那賀川がせき止められた時に、この峠を救助船が通ったことが記されています。また、春森には高磯山崩壊から 100 周年に当たる平成 3 年（1991）に慰霊之碑が建立されました。＜寺戸恒夫「徳島県高磯山崩壊と貯水池防災」（地理科学第 14 号）1970 年、上那賀町誌編纂委員会編「上那賀町誌」1982 年など＞

つづら峠の記念碑

高磯山崩壊慰霊之碑

Vol. 97（2020 年 7 月）同じ日の崩壊②

■保瀬の崩壊（徳島県海陽町）

7 月 25 日午後 2 時頃、保瀬の川南の中腹が幅 300m、長さ 800mにわたり崩壊して、海部川北岸の山麓にいた 3 家族 11 人及び長雨を避けて投宿していた山稼人 36 人、馬 3 頭が家屋とともに生き埋めになり、田畑 4 町余歩も埋没しました。崩壊により海部川がせき止められて天然ダムができましたが、26 日午後 7 時頃、弱所を破った水が海部谷を流れ下り、川沿いに人家の流出、堤防の決壊、田畑の埋没・流失などの被害をもたらしました。平井に昭和 10 年に建立された保瀬崩壊記念碑と平成 5 年に再建された保瀬大崩壊の碑が立っています。＜海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995 年及び保瀬崩壊記念碑など＞

※上記の天然ダムの決壊日時は保瀬崩壊記念碑の碑文に基づいて 26 日午後 7 時頃としましたが、「海南町史上巻」では調査の結果、27 日の午後ではないかと思われると記しています。

保瀬崩壊記念碑（昭和 10 年）

保瀬大崩壊の碑（平成 5 年）

藩が雨乞いを

干ばつの時には、神仏のご加護にすがる雨乞いが各地で行われてきました。藩が寺社に雨乞いを依頼することもありました。香川県大内町（現東かがわ市）の水主神社と愛媛県玉川町（現今治市）の光林寺の雨乞いの例をご紹介します。

■水主神社の雨乞い（香川県東かがわ市）

明和 4 年（1767）の干ばつに際して、藩から水主（みずし）神社の別当大水寺へ雨乞いの示達がありました。その示達には、雨乞い料として米 5 俵下賜、雨乞いは水主神社で行うようにとなっていました。雨乞いに米 5 俵下賜は特別な計らいで、この 5 俵は勘定の時に水主神社社領高の年貢のうちから差し引くことになっていました。6 月 7 日より円光寺、弘海寺、薬師房、大空房、本心房、本覚寺、大水寺の雨請衆僧 7 人と藩から郡奉行の代参 2 人が参列、村役人らが酒一樽を献上し、厳かに修行を始めたところ、7 日夜に早速大雨が降り、翌日から植え付けができるようになったため、27 日までの修行の予定を 17 日で結願にしたという報告が藩になされています。なお、水主神社の雨乞いには水を象徴する黒鯉を水に泳がせて奉献祈祷するのが古来のしきたりでした。＜誉水村誌編集委員会編「誉水村誌」1972 年＞

水主神社

水主神社
東かがわ市
（地理院地図に加筆）

Vol. 98（2020 年 8 月）藩が雨乞いを②

■光林寺の雨乞い（愛媛県今治市）

元禄 6 年（1693）、田植え時期になっても降雨がなく、越智郡一帯は大干ばつとなりました。各地で雨乞い祈祷が行われましたが、6 月半ばに至るも効験がなく、今治藩では代官所から奈良原権現の別当光林寺へ雨乞いを依頼しました。光林寺の光範上人は、16 日より末寺の僧ら 10 数名とともに奈良原権現で雨乞い祈祷を行いました。光範上人による祈雨は「光範雨乞」とか「光範ウルウ」として後世までも著名でした。18 日は多少の降雨があり、19 日には本格的な雨となり、蒼社川には水が溢れ、新田分まで灌水するに至ったので、20 日に結願となりました。この雨乞いに際しては、代官所や百姓中よりの祈願文が奉納され、龍王宮の造立、秋の御礼参り、桧 500 本の植林を行うことを約定していました。＜愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年など＞

光林寺

蒼社川
光林寺
（地理院地図に加筆）

台風による山崩れ

9 月は台風が多く襲来する季節です。台風により大雨、暴風、高波、高潮に伴う被害が発生するほか、豪雨が続く時には山崩れなどの土砂災害が起こることもあります。愛媛県今治市と高知県土佐市の例をご紹介します。

■昭和 51 年台風 17 号による山崩れ（愛媛県今治市）

昭和 51 年（1976）9 月 8 日から 13 日にかけて、大三島町（現今治市）は台風 17 号に襲われました。9 月 1 日から 6 日間降り続いた 381 ミリの豪雨と、13 日正午頃の台風通過時に吹いた南西の暴風のため、町内各地で被害が続出し、被害額は 4 億 7,700 万円にのぼりました。台海岸では護岸が約 80m崩壊し、付近の住家は高波をまともに受けました。風当たりの強い地区では、農作物が高波をかぶり、みかんや刈り取り間近の稲穂が傷つき倒れ、多くの被害が出ました。また、この台風で山崩れが起こり、御串山の阿奈波（あなば）神社では本殿が押しつぶされ、拝殿が半壊しました。＜大三島町誌編纂会編「大三島町誌一般編」1988 年＞

阿奈波神社
copyright~2013四国災害アーカイブス

阿奈波神社
（地理院地図に加筆）

Vol. 99（2019 年 9 月）台風による山崩れ②

■昭和 50 年台風 5 号による山崩れ（高知県土佐市）

昭和 50 年（1975）8 月 17 日の台風 5 号は、土佐市に最大時間雨量 117 ミリ、24 時間雨量 550 ミリという記録的な豪雨をもたらしました。鳴川、天崎、末光で山崩れが起こり、用石堤防が決壊するなどして市内一円にわたって浸水被害が出ました。被害は死者 6 人、重軽傷者 74 人、家屋の全半壊 98 戸、床上浸水 2,255 戸、床下浸水 2,100 戸などで、被害額は 138 億 9,400 万円に及びました。山崩れなどにより大きな被害を受けた鳴川では、住民が一致協力して災害復旧に取り組むとともに、災害の教訓を後世に伝えるために、災害から 6 年後の昭和 56 年 8 月に台風 5 号災害碑を建立しました。＜土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978 年、鳴川の台風 5 号災害碑など＞

鳴川の台風５号災害碑

（地理院地図に加筆）

石碑に込められた思い

災害に関する石碑には災害時の様子や教訓などが刻まれています。石碑の前に立つと、後世の人に伝えたいという先人の思いが感じられます。昭和 51 年の台風 17 号による山津波で被害を受けた徳島県那賀町と香川県小豆島町の石碑をご紹介します。

■平地区の慰霊碑（徳島県那賀町）

昭和 51 年（1976）9 月、台風 17 号が鹿児島の南西海上に停滞し、木頭村（現那賀町）では 8 日から 6 日間大雨が降り続き、総雨量 2,782 ミリを記録しました。台風が去った直後の 13 日午後 1 時 30 分頃、突如西ノ谷山が崩壊し、膨大な量の土石流が北川平地区の大半を埋め尽くしました。このため、建設作業員宿舎が流されるなどして、死者 6 人、重傷者 1 人の被害のほか、家屋の全壊 2 戸、半壊 1 戸、山林、耕地、林道、公共施設等に被害が及びました。一周忌を迎えた昭和 52 年 9 月に、犠牲者の冥福を祈るために災害の記録や犠牲者の名前を刻んだ石碑が平地区に建立されました。＜平地区の慰霊碑、木頭村誌編纂委員会編「木頭村誌続編」2006 年、平成 11 年度北川小学校卒業生編「『ふるさと』折宇・北川」2000 年など＞

平地区の慰霊碑

（地理院地図に加筆）

Vol. 100（2020 年 10 月）石碑に込められた思い②

■西城の大水害復興記念碑（香川県小豆島町）

昭和 51 年（1976）9 月の台風 17 号により、8 日～13 日の降雨量は内海町（現小豆島町）四望頂で 1,376 ミリに達しました。西城地区でも 11 日に 819 ミリの集中豪雨となって、岩石、樹木を伴った山津波が起こり、ほとんどの家屋が流出、埋没、床上浸水をこうむりました。水害後、国・県・町の復興事業が建設業者の協力、地区住民の奮起によって行われ、3 箇年で復興することができました。これを記念して、昭和 54 年 9 月に大水害復興記念碑が建立されました。碑には「禍福無門」と刻まれています。災いや幸せは人が呼び寄せるものであって、禍福が入ってくる決まった門があるわけではないという意味です。＜西城の大水害復興記念碑、内海町教育委員会編「内海町の碑文集」1987 年、内海町災害の記録編集委員会編「昭和 51 年 9 月台風 17 号による集中豪雨 1,400 ミリの爪跡」1977 年など＞

西城の大水害復興記念碑
copyright:2013四国災害アーカイブス

西城の大水害復興記念碑
小豆郡
小豆島町
（地理院地図に加筆）

Vol. 101（2020 年 11 月）津波がここまで①

津波がここまで

宝永 4 年（1707）10 月 4 日、東海、南海、四国沖にわたる巨大地震が発生し、海岸を津波が襲いました。津波は海岸から離れたところにまで到達しました。徳島県阿南市と高知県香南市の例をご紹介します。

■八大神社の馬場まで（徳島県阿南市）

「野村家伝来記」によると、宝永 4 年（1707）10 月 4 日午前 10 時頃より大地震が起こり、11 時頃におさまりました。大地が割れ、家や木が崩れ、高い山から大石が落ちて、人々は生きた心地もしませんでした。正午頃に、大波が打ち寄せるので山へ逃げようという声が聞こえてきました。ほどなく川には白波が立ち、大波が見えたので、人々は右往左往しながら山へ逃げ登りました。一番波は津峯の八大神社の馬場先まで、二番波は馬場中程まできて、海岸に近い戎山では波高は 1 丈（3m）余に達しました。津波は三番波で終わりましたが、地震は数日間断続しました。海上には津波により下福井、橘浦、答島村から流出した家々が満ちていました。＜阿南市史編さん委員会編「阿南市史第２巻」1995 年、徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962 年など＞※海岸から八大神社までの距離は 1km ほどです。

八大神社

八大神社
阿南市
（地理院地図に加筆）

Vol. 101（2020 年 11 月）津波がここまで②

■若一王子宮の鳥居まで（高知県香南市）

「無題冊子」及び「大変記」によると、宝永 4 年（1707）10 月 4 日は、空は晴れ四方に雲なく、その暑さは耐え難き極暑のごとくであったと言い伝えられています。正午頃、ゆらりゆらりと静かに地震が起こり、その後次第に揺れだし、家や蔵が崩れ、地割れが起こり、小砂、水などが湧き出してきました。しばらくして揺れが何度となく起こり、津波が打入り、人々は叫び、大急ぎで近辺の山々へ逃げ走りました。津波の潮先は徳王子の若一王子宮の花表（鳥居）まで達しました。津波は翌朝までに 11 回に及び、岸本、赤岡など海岸部は壊滅的な被害を受けました。土佐国中の被害は、死者 2 千余人、流家 1 万 1,170 軒、潰家 4,860 軒、破損家 1,742 軒、破損船 768 艘等となりました。＜香我美町史編纂委員会編「香我美町史上巻」1985 年など＞

※海岸から若一王子宮の鳥居までの距離は 2km ほどです。

若一王子宮の鳥居

若一王子宮の鳥居
香南市
（地理院地図に加筆）

102（2020 年 12 月）安政南海地震の津波碑①

安政南海地震の津波碑

安政元年 11 月 5 日（1854 年 12 月 24 日）、前日の東海地震に引き続いて、紀伊半島沖を震源とする南海地震が起こり、四国の海岸は津波に襲われました。この時の津波碑が四国各地に建立されています。徳島県小松島市と高知県土佐市の例をご紹介します。

■豊浦神社の石碑（徳島県小松島市）

安政元年（1854）11 月 4 日の朝方と夜に地震が起こり、5 日夕方大地震が発生しました。5 日午後 5 時半頃から小松島浦で火災が発生したため、近隣の者が総出で消火活動をしていたところ、津波の噂が出て消火に当たっていた人々が逃げたので、小松島浦の 7 割方が焼失しました。小松島浦に襲来した津波は川口で八方に広がり、沿岸の堤が 60ｍも切れて今開、南開方面に塩水が流れ込んだものの、すぐ引いたので大きな被害を受けずにすみましたが、田野、旗山、金磯新田、和田津新田では大きな被害が出ました。赤石町の豊浦神社の津波碑には、安政地震の津波のため各地で多くの人が流されたが、豊浦や近くの人がこの神社に集まって難を逃れたのは白楽天（豊浦神社の祭神）のおかげと刻まれています。＜小松島市新風土記編纂委員会編「小松島市新風土記」2001 年など＞

豊浦神社の石碑

小松島市
豊浦神社
（地理院地図に加筆）
小松島市

Vol. 102（2019 年 12 月）安政南海地震の津波碑②

■宇佐萩谷の安政地震津波碑（高知県土佐市）

安政元年（1854）11 月 4 日午前の大地震では宇佐に津波が 7､8 度押し寄せたものの人家まで来ませんでしたが、翌 5 日午後 5 時頃に発生した未曾有の大地震では山崩れ、人家倒壊が起こり､人々が救助を求めているところに大津波が襲来し、海に近い家は悉く捲き込まれました。宇佐では家屋がほとんど流失し、流死は 70 余人に及びました。宇佐萩谷の安政地震津波碑には､山手へ逃げ登った者は皆つつがなく、衣食等を調えたり、あわてて船に乗った者は流死を免れなかったと記され､後代の変に逢う人は必ず用意がなくても早く山の平らな傍に岩のないところを選んで逃げること、流失の家財・衣服等を拾うと流行の悪病にかかることなどの教訓が刻まれています。＜宇佐町保勝会編「宇佐町誌」1937 年、土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978 年など＞

安政地震の碑
宇佐萩谷の安政地震津波碑

宇佐萩谷の安政地震津波碑
（地理院地図に加筆）

計画を立て、やり遂げる

渇水のために度々凶作に見舞われた地域がありました。その地域の人々の悲惨な様子を見て、何とかしたいと計画を立て、困難に直面しながらもため池を築き、水路をつくり、水を引いた人たちがいました。香川県の亀越池と愛媛県の坂之内池の例をご紹介します。

■亀越池（香川県まんのう町）

寛永 3 年（1626）5 月～8 月頃に讃岐では 95 日間も雨が降らず凶作となり、多くの村人が飢えて死んでいきました。岡田上村（現丸亀市）の大庄屋岡田久次郎は、岡田から 8km も離れた長炭（現まんのう町）の土地を買い取り山中に亀越池を築き、池の水を土器川に流し、これを水路として札の辻の横井まで導き、そこから岡田に通じる堺水路（後の岡田井手）に引き入れて取水する計画を立てました。昔から土器川の水を堰から取水していた人々の反対にあいましたが、何度も話に行き許しをもらうことができました。久次郎は藩の許可を得て、私財を投じて約 2 年がかりで寛永 10 年（1633）に完成させました。赤坂には久次郎の徳をしのんで紀功之碑が建立されています。＜綾歌町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちの町あやうた」2004 年、旧岡田上村政所久次郎紀功之碑など＞

亀越池

旧岡田上村政所久次郎紀功之碑

Vol. 103（2021 年 1 月）計画を立て、やり遂げる②

■坂之内池（愛媛県四国中央市）

土居町（現四国中央市）天満地区は、寛延年間（1748～1751 年）頃まで、日照りが続くと水不足のため、人々の暮らしは困窮し、水争いもよく起こっていました。下天満の大庄屋寺尾九兵衛は天満の山の坂之内にため池をつくることを考えました。谷川に高い堰堤をつくり、自然の流れに逆らって、貯まった池の水を水路とトンネルを通して天満側に流そうという計画でした。そのためには、山の中腹に約 45mのトンネルを掘ることが必要でしたが、鑿（のみ）と鎚（つち）で少しずつ掘り抜いていきました。九兵衛は財産を投じて工事を指揮しましたが、途中で亡くなり、夫の遺志を受け継いだ妻ツタが工事を続けて池を完成させました。池の畔に昭和初期に二度行われた改修工事の記念碑が建っています。＜四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし」2006 年、坂之内溜池改修記念碑＞

坂之内池
copyright©2013 四国災害アーカイブス

坂之内溜池改修記念碑

坂之内池
天満
（地理院地図に加筆）

ため池の改修

ため池は築造から年月がたつと老朽化や土砂の堆積などにより改修が必要になります。水不足の対策としてため池の貯水量を増やすために改修工事を行うこともあります。香川県の岩瀬池と愛媛県の犬塚池の例をご紹介します。

■岩瀬池の改修（香川県三豊市）

高瀬町（現三豊市）の岩瀬池が築造されたのは文禄元年（1592）でした。築造以来、岩瀬池の底には長い年月の間に土砂が堆積し、池の広さの割には貯える水の量が多くありませんでした。人々は毎年、水不足と古くなった池の修理に悩まされていました。このため、昭和 10 年（1935）にため池の改修のため岩瀬池耕地整理組合が組織され、県営事業により承水溝改修に着手（昭和 12 年竣工）、昭和 17 年には堤塘の嵩上げに着手（昭和 20 年竣工）、引き続き幹線水路の改修等の大工事が行われました。岩瀬池の堤防に立つ改修記念碑には、この改修工事により干害が除かれたため豊穣が約束されて歓声が山野にみなぎったこと、真鍋申三郎が終始一貫組合長として寝食を忘れて奔走したことなどが記されています。＜香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」2013 年、岩瀬池の改修記念碑など＞

岩瀬池

岩瀬池の改修記念碑

（地理院地図に加筆）

Vol. 104（2021 年 2 月）ため池の改修②

■犬塚池の改修（愛媛県今治市）

玉川町（現今治市）の犬塚池は文化 14 年（1817）に築造されました。犬塚池では、昭和 9 年（1934）の大干ばつを契機として、犬塚池改修工事組合が結成され、池水掛りの立花、清水、冨田、鴨部の四ヵ村あげて改修運動を進めた結果、県営施行で干害応急対策事業が行われることになりました。昭和 10 年から 12 年にかけて、水不足を解消するため、本堤、副堤 2 ヶ所の嵩上げ工事、水源地から導水するコンクリート水路の開設工事、用水路の整備が行われ、改修後に貯水量が従前の 3 倍になりました。改修工事はすべて関係農家の出役によるもので、当時の工事写真には、男はトロッコで土運び、女は割烹着に姉さん被りで亥の子搗き（いのこづき）という光景が映されています。＜愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年＞

犬塚池
copyright©2013 四国災害アーカイブス

犬塚樋
copyright©2013 四国災害アーカイブス

犬塚池

（地理院地図に加筆）

石段が伝える

神社やお寺の石段が過去の津波の潮位を伝える指標になっていることがあります。石段に石碑が設置されていることもありますし、先人の記録から推察できることもあります。徳島県美波町と高知県須崎市の例をご紹介します。

■八幡神社と延命寺の石段（徳島県美波町）

安政元年（1854）の地震・津波により、木岐浦（現美波町）では総戸数 203 戸のうち流失 190 戸、大破・小破 6 戸の被害を受け、無難な家は 7 戸にすぎませんでした。木岐元日堂記録によると、11 月 4 日朝 5 ツ時（午前 8 時頃）に大地震があり、人々は大汐が来ることを用心して家物を持って山や寺など土地の高い所に避難して夜を明かしました。翌 5 日朝から空は晴れ風もないので、人々が持ち出したものを持ち帰ったところ、夕 7 ツ時（午後 4 時頃）大地震が起こり、煉塀が崩れ、家土蔵が大いに破損しました。間もなく津波が打入り、その高さは家土蔵よりはるかに高く 3 丈（9m）余になりました。津波は八幡神社の上の石段下より 3 つ目まで達し、延命寺の石段ではおよそ 8 歩通り浸かりました。＜海部郡誌刊行会編「海部郡誌」1927 年、由岐町史編纂委員会編「由岐町史下巻」1994 年＞

八幡神社の石段

延命寺の石段

（地理院地図に加筆）

Vol. 105（2021 年 3 月）石段が伝える②

■神明宮と江雲寺の石段（高知県須崎市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時過ぎ、南海大地震が起こりました。須崎市野見の震災復旧記念碑には、地震終息から津波来襲までの 15 分間に人々が貴重品を携えて裏山に避難したこと、津波が大小 6 回来襲し引潮の時に家屋の倒壊・流失などの被害が発生したことが記されています。野見の被害は死者 2 人、家屋の流失 59 戸、全壊 29 戸、半壊 99 戸、浸水 31 戸に及び、船舶・漁具・家財道具の流失破損も夥しい数となりました。最高潮位は 4.5mほどに達し、神明宮石段の下から 19 段目と江雲寺石段の下から 15 段目に最高潮之跡の碑が設置されています。＜須崎史談会「須崎史談第 25 号」1976 年、須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、大家順助編「須崎消防の歩み第 2 巻」1985 年)、野見の震災復旧記念碑＞

神明宮の石段

江雲寺の石段

（地理院地図に加筆）

四国災害アーカイブスの概要

■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29.528 件です（令和 3 年 4 月現在)。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波 2)土砂災害 3)渇水 4)風水害 5)高潮 6)雪害 7)火山災害 8)大規模な火災 9)その他
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史 ・災害記録、災害体験集 ・学術論文、雑誌論文 ・事業誌 ・写真集 ・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料ＰＤＦ（著作権者から許諾が得られた場合）

■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の３つのことをお伝えできればと考えています。

①身近な所に災害の歴史があります

平成 23 年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。
E-mail: info@shikoku-saigai.com

アーカイブスあらかると
Vol.94～105（2020年4月～2021年3月）

四国災害アーカイブス事務局
（一般社団法人　四国クリエイト協会）
〒760-0066　香川県高松市福岡町3-11-22
電話 087-822-1676　FAX 087-823-8569
http://www.shikoku-saigai.com

2021.4